

月の花挽歌 ～8. 人情紙風船～

8 - 2

(恋の悪あがき)の一節がインサートされた刹那、座が白けてコマ送り状態になった。

「越路吹雪が歌ったシャンソン『恋心』はご存知かしら？」とKに代わって令子が女ざかりの女優に逆に問い返すことで、危うい場面を秒二十四コマの正常値に戻した。

「恋は不思議ね消えたはずの灰の中から何故に燃える♪……」と令子が小声で口ずさむ。

Tは先程から目の端にちらちらと映っていた女の、よもやよもや連れの女優の吐いた禁句のセンスティブな波動を、シャンソンを通じて中和する役どころを買って出てくれた心憎い配慮にショックを受けた。

「岸洋子も歌っていませんか？」とTは令子にサポートをするつもりで尋ねた。

「そのフレーズ、岸洋子の歌なら聞いた覚えがあります」と女優は令子とTの顔を見比べながら答えた。

「でしたら、(恋なんてむなしなものね 恋なんて何になるの)って印象的な歌の下りもご存知でしょうか？」

「思い出しました。きっと、その歌の肝の部分ですよ」と女優は分かったようなことを言った。

「それを先ほどの答えにするのは乱暴すぎるでしょうか？」

「いいえ、しっかりと胸に落ちました。例え話がお上手ですね！」

「脇から口を挟んだりしてごめんなさい。そう言ってくださると助かります」

「謝ることなんかないですよ。『恋心』を引き合いに出すあたり貴女の見識の高さには脱帽です。確か『恋心』はフランスの歌じゃなかったですか？」とTは取りなし顔で言った後で尋ねた。

「そうです。私の知る限りですが、『恋心』のフランス語の原題は、『恋はなんのためでもない』と和訳します。東京オリンピックが開催された年に岸洋子が初渡仏した際、エンリコ・マシアスが歌っているのを耳にして、何とか帰国記念盤として発売にこぎ着けたようです。私はどちらかたというとは後発の越路吹雪の歌い方が好きです」と令子は丁寧な解説をした。

老いらくの恋の渦中にあるKは、ひとり娘より年下の女優から無遠慮な言葉を掛けられて気分を損ねた。

悪意が含まれていなかったのが尚更こたえたが、令子の気働きのおかげで不快感が解消されて、グランクリュ(特級畑)のロゼシャンパン本来の繊細で奥深い風味を味わうことができた。

因みに、フランス宮廷ではマリー・アントワネットやポンパドール夫人らがこぞってシャンパンを愛好したそうです。